

## 薬剤部 DI ニュース

### 《坐剤について》

坐剤とは肛門または膣に使用する外用薬で、直腸、肛門、膣などの局所に作用するものと、粘膜から吸収されて全身に作用するもの（解熱鎮痛薬など）があります。

今回は肛門から入れる坐剤について紹介します。

#### ★坐剤の種類

現在使用されている坐剤は基剤により大きく 2 つに分類されます。

- ◆油脂性基剤(融点 33.5～39℃)：体温によって溶解し薬物を放出
- ◆水溶性基剤(融点 50～60℃)：分泌液に徐々に溶解し薬物を放出

#### ★坐剤の利点

- ◆内服よりも即効性が期待できる
- ◆乳幼児や経口投与が難しい患者へも投与できる
- ◆胃障害を起こしにくい
- ◆肝初回通過効果が一部回避できる  など

#### ★2 種類の坐剤を使用する場合

- ◆原則として緊急を要する薬剤を先に使用
  - ◆同一基剤を併用する場合は、最初の坐剤を使用後、坐剤の排出がないことを確認し、5 分程度を目安にして次の坐剤を使用
  - ◆基剤が違うものを併用する場合は、水溶性のものを先に使用し、30 分から 1 時間程度以上の間隔をあけて油脂性のものを使用
  - ◆下剤を使用する場合は、先に使用した薬剤の吸収を考慮し、1 時間程度間隔をあけ最後に使用
- ※上記は目安であり、どの組み合わせでどの程度の相互作用が起きるか、すべてが明らかになっているわけではないので、判断に困る場合は問い合わせください。

#### 【例】

- ◆ダイアップ坐剤とアンヒバ坐剤  
けいれんを止める・予防することが第一なので  
ダイアップを使用後、30 分以上あけてアンヒバを使用
- ◆ナウゼリン坐剤とアンヒバ坐剤  
水溶性基剤のナウゼリンを使用後、30 分以上あけてアンヒバを使用

◆アンパック坐剤と他剤

アンパックの吸収を考慮し、アンパック使用后、2 時間程度間隔をあけて使用（メーカー情報）

【坐剤の基剤の特性】

薬効分類	薬剤名（規格）	成分名	基剤
解熱鎮痛薬	アンヒバ坐剤（50、100、200mg）	アセトアミノフェン	油脂性
	ボルタレンサポ（12.5、25、50mg）	ジクロフェナク Na	油脂性
催眠鎮静薬	ダイアップ坐剤（4、6mg）	ジアゼパム	水溶性
制吐薬	ナウゼリン坐剤（10、30、60mg）	ドンペリドン	水溶性
下剤	テレミンソフト坐薬（10mg）	ピサコジル	油脂性
	新レシカルボン坐剤	炭酸水素 Na 無水リン酸二水素 Na	油脂性
オピオイド鎮痛薬	アンパック坐剤（10、20mg）	モルヒネ	油脂性

★坐剤の効果時間

【坐剤の効果】

薬剤名	効果発現時間	効果持続時間
アンヒバ坐剤	30 分以内	約 4 時間
ボルタレンサポ	鎮痛：10～20 分 解熱：30 分以内	約 5 時間 6～8 時間
ダイアップ坐剤	15～30 分	約 8 時間
ナウゼリン坐剤	1～1.5 時間	約 7 時間

※上記表は目安です。効果には個人差があります。

★保管方法

- ◆油脂性基剤：温度が上がると溶けるので冷蔵庫または室温保存のものは高温を避けて保管
- ◆水溶性基剤：水分で溶けるので室温保管でよい

参考：TOMITA NEWS あじさい Vol.19,No2,2010

薬剤部 田中